

# 秋田県立衛生看護学院

Akita Prefectural Hygiene and Nursing Academy



学院案内

INFORMATION

# 教育理念

看護の対象である人間は分割することのできない全体としての存在であり、人間を取り巻くすべての環境と連続的・相互的にかかわり、変化するかけがえのない個人として尊重されなければならない。

看護とは、人間が人として十分に機能するための力である健康を支援することである。21世紀を迎え、社会の変化や発展に対応できる看護専門職者が求められている。

**本学院は、人間を理解し尊重し、看護が実践できる基礎的能力を養い、生涯にわたり主体的に学び続ける看護専門職者として、県民のニーズに応え社会に貢献できる人材を育成する。**

# 各科の定員と修業年限

	修業年限	入学定員
保健科	1年	15人
助産科	1年	10人
看護科	3年	40人



# 学院の沿革

昭和33年4月 1日	県立高等看護学院開設
33年4月15日	県立高等看護学院開校式(開校記念日)
36年4月	県立保健婦学院開設
38年9月	県立高等看護学院に2年課程を併設、従来の課程を3年課程と称する
41年4月	看護学院と保健婦学院を統合し、秋田県立衛生看護学院と改称、保健科、看護科に改める
45年4月	看護科に2年課程第2部を増設
47年4月	看護科3年課程が秋田大学医学部附属看護学校として、国立に移管
55年4月	助産科開設
56年4月	看護科3年課程を再開
58年3月	看護科2年課程第2部を廃止
12月 8日	専修学校として認可
平成20年3月	看護科2年課程を廃止
20年4月	横手市へ新築移転 創立50周年を迎える
30年4月	創立60周年を迎える



# 保健科

## 教育目的

保健師になるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、公衆衛生の向上に寄与でき、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

## 教育目標

- 1 地域及び地域を構成する人々の健康を多角的・系統的かつ予測的に捉えてアセスメントし、顕在・潜在している地域の健康課題を明確にし、解決・改善策を計画・立案・実施・評価する能力を養う。
- 2 地域の人々が、自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ることができるよう支援するとともに、地域の人々並びに関係機関と協働し健康課題を解決できる能力を養う。
- 3 平常時から健康危機管理の体制を整備し、健康危機の発生時から発生後の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を養う。
- 4 地域の健康課題解決のために必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築を行う能力を養う。
- 5 保健・医療・介護・福祉に関する最新の知識・技術を主体的かつ継続的に学ぶことにより実践の質を向上させる能力を養う。
- 6 社会情勢の動向を的確に捉え、社会的正義・公正に基づき、倫理的問題に対応する能力を養う。

## 卒業後の資格



## 卒業後の進路

保健所・市町村・事業所・病院等

## 授業科目と単位数

科目	授業科目	単位
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1
	公衆衛生看護学概論Ⅱ	1
	地域組織支援論	1
	健康教育論Ⅰ	1
	健康教育論Ⅱ	1
	家族支援論Ⅰ	1
	家族支援論Ⅱ	1
	家族心理学	1
	カウンセリング技術	1
	地区活動展開論Ⅰ	1
	地区活動展開論Ⅱ	3
	社会調査技法	1
	地域ケアシステム論	1
	母子保健活動論	1
	成人保健活動論	1
	高齢者保健活動論	1
	産業保健活動論	1
	生活障害保健活動論	1
	感染症保健活動論	1
	公衆衛生看護管理論	1
健康危機管理論	1	
疫学	疫学Ⅰ	2
	疫学Ⅱ	2
保健統計学	保健統計学	2
保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論Ⅰ	1
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1
	健康政策論	2
公衆衛生看護学実習	個人・家族・集団・組織の支援実習	3
	公衆衛生看護活動展開論実習	3
	公衆衛生看護管理論実習	
合計		39



# 助産科

## 教育目的

助産師になるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

## 教育目標

- 1 助産の対象を全人的に理解し、それに対応して助産師の実践活動ができる能力を養う。
- 2 変動する社会の要請、科学技術の進歩に対応可能な基礎的能力を養う。
- 3 助産師としての社会的・職業的責務を果たす能力を養う。
- 4 助産実践の向上を図る研究的態度を養う。

## 卒業後の資格

1  
助産師国家試験  
受験資格

2  
受胎調節実地指導員の  
資格

## 授業科目と単位数

科目	授業科目	単位
基礎助産学	助産学概論	2
	基礎助産学Ⅰ	2
	基礎助産学Ⅱ	1
	基礎助産学Ⅲ	1
	基礎助産学Ⅳ	2
	基礎助産学Ⅴ	1
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ	2
	助産診断・技術学Ⅱ	2
	助産診断・技術学Ⅲ	1
	助産診断・技術学Ⅳ	2
	助産診断・技術学Ⅴ	2
	助産診断・技術学Ⅵ	2
	助産診断・技術学Ⅶ	3
地域母子保健	地域母子保健	2
助産管理	助産管理	2
助産学実習	助産診断・技術学実習Ⅰ	2
	助産診断・技術学実習Ⅱ	3
	助産診断・技術学実習Ⅲ	3
	助産診断・技術学実習Ⅳ	1
	地域母子保健実習	2
合計		38

## 卒業後の進路

病院及び診療所等



# 看護科

## 教育目的

看護師になるために必要な専門の知識及び技術を習得させ、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

## 教育目標

- 1 対象を全人的に理解する能力を養う。
- 2 対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉におけるチームメンバーとしての役割を果たす能力を養う。
- 4 人間尊重を基盤とした多様な価値観を認識し柔軟な姿勢で対応できる能力を養う。
- 5 看護の向上を目指し、研究的態度を養う。
- 6 自然・社会文化的環境と健康との相互作用をダイナミックに捉えられる能力を養う。

## 卒業後の資格

1  
看護師国家試験  
受験資格

2  
保健師・助産師学校  
受験資格

## 卒業後の進路

病院及び診療所、介護老人保健施設・老人福祉施設等



## 授業科目と単位数

科目	授業科目	単位			
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学 1 教育学 1 情報科学論 1 情報リテラシー 1 情報統計学 1 心理学 1 文学 1 論理学 1 社会学 1 文化人類学 1 人間関係論 1 家族援助論 1 異文化コミュニケーション 1 英会話 1 ビジュアル・コミュニケーション 1	15		
	人間と生活・社会の理解	生物学 1 人体の構造 2 人体の機能 2 看護形態機能論 1 臨床栄養学 1 感染免疫学 1 病理学 1 臨床病態学Ⅰ 2 臨床病態学Ⅱ 2 臨床病態学Ⅲ 1 臨床薬理学 1 対人援助論 1 健康科学論 1 健康援助論 1 公衆衛生学 1 社会福祉・社会保障 1 関係法規 1 保健医療論 1	22		
	小計	18科目	22		
	専門基礎分野	人体の構造と機能	基礎看護学概論 1 共通看護技術Ⅰ 1 共通看護技術Ⅱ 1 生活援助技術 1 臨床看護技術 1 診療援助技術 1 ヘルスアセスメント 1 看護アセスメントⅠ 1 看護アセスメントⅡ 1 看護研究 1 総合看護技術演習 1	11	
		疾病の成り立ちと回復の促進	地域・在宅看護概論Ⅰ 1 地域・在宅看護概論Ⅱ 1 地域・在宅看護概論Ⅲ 1 地域・在宅看護援助論Ⅰ 1 地域・在宅看護援助論Ⅱ 1 地域・在宅看護援助論Ⅲ 1 地域・在宅看護技術 1	7	
		健康支援と社会保障制度	健康状態別看護Ⅰ 1 経過別看護Ⅱ 1 成人看護学概論 1 成人看護学援助論Ⅰ 1 成人看護学援助論Ⅱ 1 成人看護学援助論Ⅲ 1 成人看護学援助論Ⅳ 1 成人看護技術 1 老年看護学概論 1 老年看護学援助論 1 老年看護技術 1 小児看護学概論 1 小児看護学援助論Ⅰ 1 小児看護学援助論Ⅱ 1 小児看護技術 1 母性看護学概論 1 母性看護学援助論Ⅰ 1 母性看護学援助論Ⅱ 1 母性看護技術 1 精神看護学概論 1 精神看護学援助論Ⅰ 1 精神看護学援助論Ⅱ 1 精神看護技術 1	11	
		小計	47科目	47	
		専門分野	基礎看護学	医療安全Ⅰ 1 医療安全Ⅱ 1 災害・国際看護論 1 看護実践マネジメント 1 実践看護技術 1 看護倫理 1	6
			地域・在宅看護論	臨地実習 地域・在宅看護論実習 2 基礎看護学実習Ⅰ 1 基礎看護学実習Ⅱ 2 成人・老年看護学実習Ⅰ 3 成人・老年看護学実習Ⅱ 2 成人・老年看護学実習Ⅲ 2 成人・老年看護学実習Ⅳ 2 成人・老年看護学実習Ⅴ 1 小児看護学実習 2 母性看護学実習 2 精神看護学実習 2 看護の統合と実践 2	23
			小計	12科目	23
			合計		107



# 学院の行事



# 先輩達からのメッセージ

助産科42期生  
(令和4年3月卒業)

中村真優子

助産科では、1人10例の分娩介助を行います。実習中は、大変なこともありましたが、先生方や指導者の方々、何より私たちに命の誕生の瞬間を任せてくれた沢山のお母さんと赤ちゃんのおかげで、無事に乗り越えることができました。かけがえのない仲間と駆け抜けたこの1年は、これからの助産師としての大きな原動力になると思います。



保健科61期生  
(令和4年3月卒業)

太野奏恵

保健科では、実習の様々な機会に住民の方と関わりながら勉強します。中でも家庭訪問では継続訪問により対象の思いや強みを知り、その人にとっての望ましい姿や必要な支援を悩みながらも考え向き合うことで、保健師としてのあり方を学びました。実習指導の保健師さんや先生方、仲間たちと共に地域の健康について考え抜いた日々は、私の保健師人生の核になると思います。

看護科39期生  
(令和4年3月卒業)

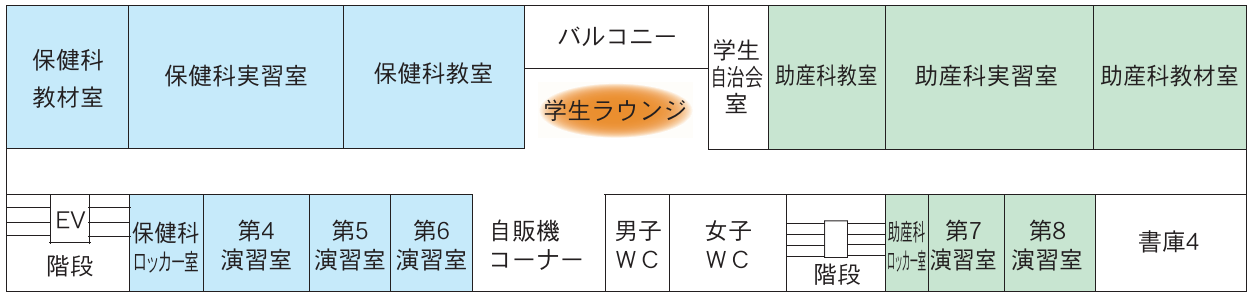
佐藤琉奈

看護科では、看護に必要な知識や技術はもちろん、将来看護職として働くための意識を培うことができました。また、患者さんや指導者さんとの出会いを通じて看護の素晴らしさと同時に難しさを学び、大きく成長することができました。仲間と励ましあい、先生方に支えていただきながら過ごした3年間は、かけがえのない、大切なお守りになると思います。



# 建物配置図

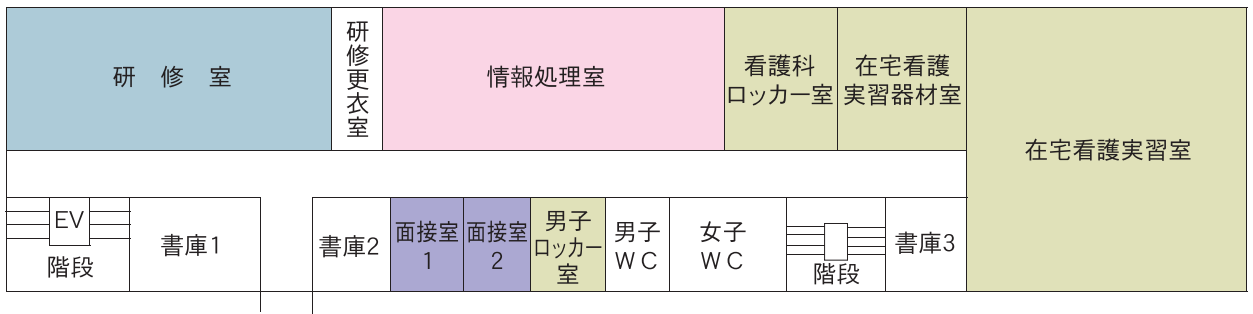
## 4階



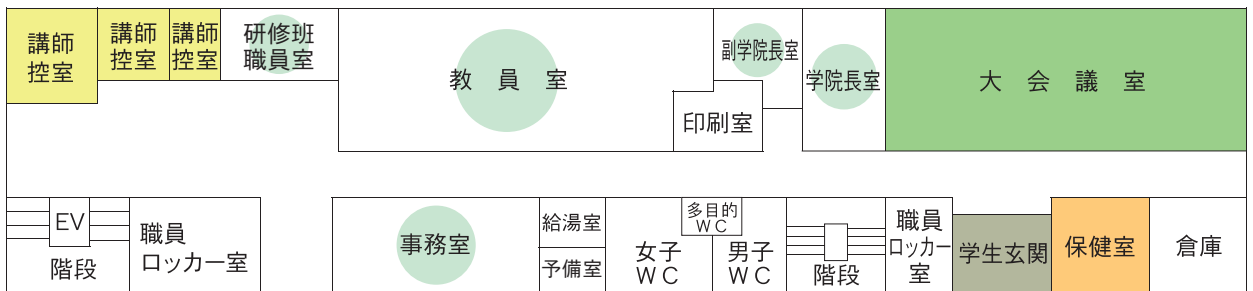
## 3階



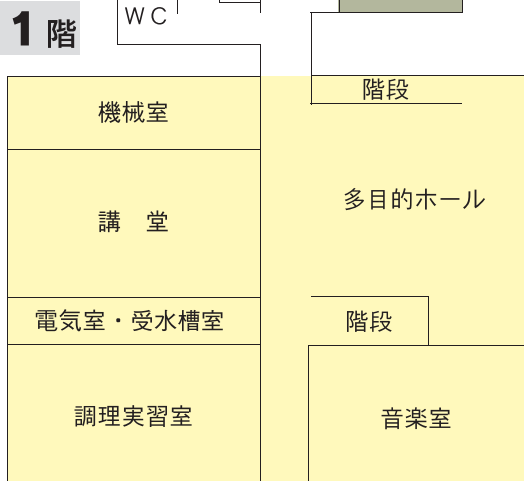
## 2階



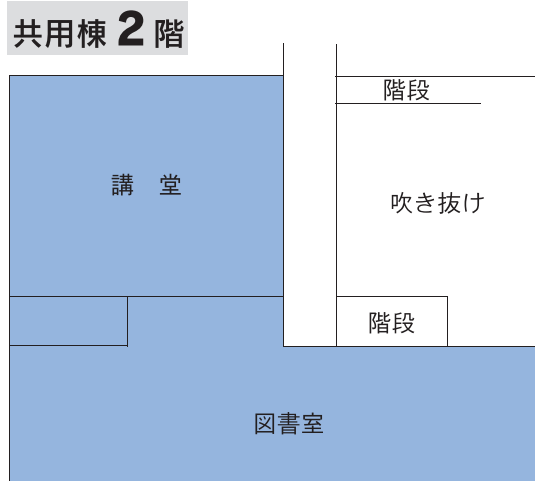
## 1階



## 共用棟 1階



## 共用棟 2階





# 受験に関する事項

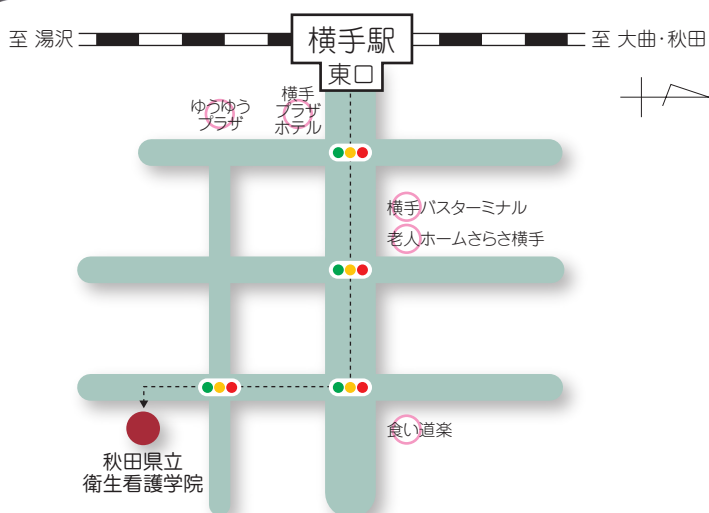
## 1. 募集要項の請求

返信用封筒（角形 2 号封筒 [※A4 サイズの書類が入る大きさ] に 250 円分の切手を貼り、住所、氏名及び郵便番号を明記したもの）を同封した封筒に「学生募集要項請求」と朱書きし、下記あてに請求してください。

本学院案内をあわせて請求する場合は「学生募集要項・学院案内請求」と朱書きしてください。

## 2. 募集要項及び学院概要

募集要項及び学院の概要については、秋田県立衛生看護学院のホームページでもご覧になれます。



秋田県立衛生看護学院

〒013-0037 秋田県横手市前郷二番町 10-2  
TEL 0182-23-5011 FAX 0182-35-5188  
ホームページ <https://www.pref.akita.lg.jp/kangaku/>